

# 漆の絵本

A2201008 小椋 可奈子

## 研究概要

誰も試したことのない表現をすることにより、漆という素材の新しい魅力を追求し、絵本というジャンルで幅広い年齢層を対象に漆の認知度を上げる。

## 背景・目的

昨年からはまった漆の芸術祭にボランティアとして参加し、数多くの作品や作家と触れ合う機会があった。自分には思いつかなかった漆の表現方法が沢山ある中で最も印象的だったのが横山祐一氏の作品「ネオ漆器」という、漆器に漫画が描いてあるという作品だ。そのような作品を多く見ていく中で自分も、他の人がやったことのない表現をしたいと強く思った。

また芸術祭に関わった際に強く感じたのが、若い世代の参加が少ないという点である。

誰も表現したことのない方法、幅広い年代に漆という素材を知ってもらうという2つの点から私は絵本の制作をすることにした。

## 制作工程

- |                     |            |
|---------------------|------------|
| 1. プラ版を A4 サイズに切り出し | 11. 中塗り    |
| 2. 布着せ              | 12. 中塗り研ぎ  |
| 3. メスリ              | 13. 上塗り    |
| 4. 下地付け(二辺地)        | 14. 上塗り研ぎ  |
| 5. 下地研ぎ             | 15. 置目を留める |
| 6. 摺り               | 16. 蒔絵     |
| 7. 下塗り              |            |
| 8. 下塗り研ぎ            |            |
| 9. 錆付け              |            |
| 10. 研ぎ              |            |



布着せ・空研ぎ・二辺地

中塗り研ぎ



上塗り・上塗り研ぎ



置目

## 感想・考察

絵本の用紙の代わりとなる板の制作と、物語の構想をまとめるのに時間をかけてしまったため凝った表現が出来なくやや残念だった。何事も計画性が大事だとつくづく実感した。

また出来上がった物を実際に子供や大人の人に読んでもらい、その反応を調査できればよかったと考える。

誰も試したことのない、「漆を用いた絵本」を制作する事により、漆の新しい表現を提案することができたと思う。

今回の卒業研究で自分でモノを作り出す楽しさや苦しさ、難しさなどを改めて経験することができた。当初は塩ビ板できちんとした漆の板が出来るのか不安だったが、意外としっかりした板が出来上がった。何事も積極的に行うことが大事であると気付かされた。